

ことになるため、先に福祉工場では保護者を呼んで、今後クリーニング、

点字ブロックの製作等の事業が必要なことを話した。また、現在は月8万円程度の給料を貰っているが、今後は工費として1万円程度を受領し、利用料として9千円程度を支払うことになるのではないか。

●産業観光課

Q：地域活性化事業補助金の使途と地域資源活用計画の策定の内容は。

A：各町内の歴史資源説明看板、西山通りの飾りつけ、不動産の滝整備等に使用している。地域資源活用計画は、新幹線改札口前周辺の利用方法についての計画を作成し、県に提出するためのもので、

町観光協会の案内業務もそこでできれば一番いいと考えている。

Q：地消地産関連予算及び新米フェア予算はどこか。新米フェアでは価格は安く設定するが、販売袋を統一するなかで、町の協力が必要である。また、価格はあくまでも町が中に入って決めてきた。早く旅館組合と来年度の数量を決めてもらいたい。

A：宣伝予算のなかで印刷して配布する。魚沼コシヒカリは生産者の顔写真を表示する。袋のデザインは課で担当するが、現在は修正している段階である。しっかりと取り組む。

Q：ソバ工場のソバの需要と供給の状況、及び担当課が変わったことによる取り組みは。

A：ソバは滝の又・旭原にお願いし、3・3ha作付けしてもらっているが、17年度700kg、18年度500kgの収穫があったが足りず、北海道から買っている。

●国体推進室

Q：インターハイの開会式・閉会式の予算が無いがどうするのか。町は何もしないのか。

A：高校体育連盟が実施するが、町職員及び高校にも手伝ってもらうことになる。

Q：会場使用料はいくらか。また、コース整備費300万円はなにか。

A：会場使用料はインターハイ・国体とも各500万円、コースの圧雪費としてとりあえず300万円を計上した。

Q：ジャンプ台の準備状況は。

A：18年度県予算8千万円で階段補修、19年度はクラブハウス等修理2千万円、サマージャンプ関係で8千万円他、合計で1億2千万円の予算が付いた。リフトは県が国際スキー開発と協議中である。

Q：インターハイを含め町の持ち出しが1億9千400万円と聞いているが、その範囲内でできるか。

A：できるように計画している。

●社会教育課

Q：雪国館の入り込み数を増やすというが対策と本年度関連事業予算は。

A：人員体制の充実と横断幕等を利用し、日本画の宣伝を大々的に行う。特別展は開催しないが昔

話講座・歴史講座等のソフト事業を考えている。

Q：公民館前の土地については、町が買って消防器具庫のことも考える必要があると思うが。

A：所有権関係が難しいが、調査してみる。

Q：中央線改良のなかで童画館誘致の話が出てくると思う。美術館建設基金等の今後の考えは。

A：建設課から話は聞いているので検討する。

●学校教育課

Q：湯沢中学校建設検討委員会の内容と高校跡地の利用についての考え。また、建設は木造校舎を考えているのか。

A：校舎の老朽化に伴い、建設検討の時期にきていると考え委員会を発足し検討する。まだ、検討委